

聖アンデレ教会のみなさま

平和

聖アンデレ教会の公開で行われる礼拝（公禱）が、日曜日の一部の礼拝から再開されることになりました。そこで、再開を前にして、教会から「礼拝参加にあたって」という文書が、みなさまにあてて送られました。（7月7日発信の文書は聖アンデレ教会ホームページに掲載されています。）

「COVID-19の影響のもとにある教会の礼拝と集会」についてまとめられている文書です。長文ですがはじめのところからぜひお読みいただきたいと思います。また礼拝参加のときの注意点や再開日程が記されていますので、それぞれよくご確認ください。

礼拝は、教会の宣教のかなめ、わたしたちはキリストの名によって集められ、キリスト信仰を礼拝の中で様々に表現し・宣言し、分かち合い、力づけられます。そしてそこから、「主と共にゆきましょう」と、わたしたちの生活の営みの場へ、現代の社会へと派遣されてゆきます。キリストとともに歩み、キリストのみ業を証するために。礼拝に、私たちの営みのすべてが献げ物として集められ、—5千人に食べ物を与える（マタイ 14:13～）ときと同様に—神さまによって祝され、豊かにされ、大きな恵みとして分かち合われてゆきます。

いま、感染症の影響の中にあって行われる礼拝でもそれが変わることはありません。しかし、表現ややり方のさまざまな変更や工夫、準備、節制、努力が求められることとなります。また何より、信仰者が神さまへの信頼なしに礼拝に連なることはあり得ません。その礼拝を通して、わたしたちがどのように神さまとともにある喜びを受けとめ、人びととともにあろうとする営みを表し、神さまに向かう心のわたしたちの感謝と賛美を分かち合うことができるのかということが問われてもいるのです。人の思いや知恵ではなく、それらをはるかに超えてわたしたちに愛をもって向き合ってください、祈りと礼拝を備え受け入れてくださる神さまに信頼することから、今一度始めたいと思います。

最近あらためて、M・パワーズの「足あと」という詩を読みました。紹介しておきます。

ある夜、わたしは夢を見た。
わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。
暗い夜空に、これまでのわたしの人生が映し出された。
どの光景にも、砂の上にふたりのあしあとが残されていた。
ひとつはわたしのあしあと、
もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、
わたしは、砂の上のあしあとに目を留めた。
そこには一つのあしあとしかなかった。
わたしの人生でいちばんつらく、悲しい時だった。

このことがいつもわたしの心を乱していたので、わたしはその悩みについて主にお尋ねした。

「主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、
あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、わたしと語り合ってくださいと約束されました。

それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、ひとりのあしあとしかなかったのです。
いちばんあなたを必要としたときに、あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、わたしにはわかりません。」

主は、ささやかれた。「わたしの大切な子よ。わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。

ましてや、苦しみや試みの時に。

あしあとがひとつだったとき、 わたしはあなたを背負って歩いていた。」

みなさまには、引き続き、キリスト信仰による交わりの中にあるお一人おひとりとして、ともに、感染症の収束、また感染症に罹患された人びとや様々な困難の中にある人びとを覚えて、医療機関や社会福祉施設、ひとびとのいのちと生活を支える現場で働く人びとのためお祈りください。教会のすべての営みが祝福のうちに再開・再構築されてゆきますように。

病者・牧会訪問、入信の式、記念式などについては、牧師にお問い合わせください。

2020年7月8日

牧師 司祭フランシス下条裕章

追伸

- ・ 献金は、安全に郵便局に行けるときは、郵便振替を活用してください。または取り置いて、安心して教会に行くことができるようになったら、礼拝でお献げください。
- ・ 万一、ご自身、同居のご家族に感染が判明したときは牧師までお知らせください。